

お茶の時間 トランプ政権の

無駄遣い

編集委員長

昨年トランプ政権の無駄遣いが話題になった。

トランプ大統領は、就任後、旧来の「ワシントン政治」を正すと述べ、行政の効率化を掲げてきた。そこに、税金の無駄遣いを巡るスキャンダルが相次いで報道され、トランプ政権は引き締め躍起になっている。

昨年9月末に辞任に追い込まれたのが、トム・プライス厚生長官である。更迭理由が、チャーター機の使い過ぎである。アメリカのマスコミ報道によれば、プライス厚生長官は、「可能な限り定期便を使う」と定めた政府の内規に反し、国内移動にチャーター機を26回以上使用し、海外出張にも専用の軍用機を使用した。彼の使った税金は総額1百万ドル（約1億1千万円）を優に超えている計算だ。

もう一人が、ムニューシン財務長官である。9月8日、ケンタッキー州に女優である妻と政府専用機で出張したが、当時アメリカ本土を99年ぶりに皆既日食が横断することで全米中が湧いていたこともあり、財務長官夫妻が皆

既日食を鑑賞するために使用したのではないかと疑われている。専用機の使用に伴う税金は、1時間当たり約2万5千ドル（約280万円）で、何時間使ったのかは明らかにっていない。

ムニューシン財務長官は、メディアの質問に「日食を見たのは2秒程度だった」と語り、公務であることを強調した。言い掛かりをつければ、皆既日食の観衆の動向を視察するのも公務と言える。

このほかに、報道されているのが、ジンキ内務長官とブルイット環境保護局長官である。ジンキ内務長官は、私的旅行に約1万2千ドル、ブルイット環境保護局長官は、約5万8千ドルかかるチャーター機を使ったことを批判されている。

これらの報道は、庶民の感覚では、無駄遣いに見えるが、たぶんトランプ政権の閣僚たちにとっては、意に介する問題ではないのかもしれない。考えてみれば、政権幹部の前歴はトランプ大統領を筆頭に大金持ちなのである。政権の成果がなかなか見えてこないトランプ政権にとって手痛いダメージになる可能性がある。

ホワイトハウスは9月29日、ケリー大統領首席補佐官が「事前に承認しない限り、チャーター機の使用を一切認めない」との方針を発表した。